

大学生の性役割観と異性交際場面 における性意識の関係に関する研究

岡崎 千佳
(保健体育専修)

1. 研究の意義と目的

昨今、性行動の低年齢化に拍車がかかっているが、性行為の際の避妊は、確実に行われているとは言いがたい。渡邊¹⁾は、女性は男性に比べ、異性の前で自分の性役割にそった行動をとるとしている。女性側が「望んでいなかったが相手に言えなかった」ために、性交に至るケースもある。避妊も、女性側が主体的に関わっている状況とは言い難い。これらのことから、「控えめ」「従順」といった、従来の性役割に沿った考え方や行動が異性交際場面において、とりわけ避妊に対する態度と関係することが推察される。

今日まで、保健体育においても性に関する内容は取り扱われてきた。しかし、教科書における内容は、性差や性情報や妊娠・出産に言及しているものの、社会的な性差と関わりの深い性役割について具体的に言及されているものは見当たらない。

異性交際場面において、性役割の視点をふまえた教育を行うことにより、性役割に必要以上にとらわれなくなれば、望まない妊娠や人工妊娠中絶などの重要な問題をはらむ避妊について、今まで以上に主体的に考え、行動できるようになるのではないかと思われる。そのような教育の可能性を探るうえで、性役割と性意識の関係を明らかにすることは不可欠である。

よって、本研究の目的は、性役割観と異性交際場面における性意識との関係を明らかにすることである。

2. 研究方法

性役割観に関する質問には、伊藤²⁾の性差観スケールを用いた。性意識を問う質問は、6問作成し、「はい」「いいえ」で回答を求めた。調査は2005年12月にI大学教育学部の授業「子ども虐待の予防と防止」の一部の時間を用い、実施した。対象者の内訳は、女性136名、男性34名である。分析方法は、まず伊藤の性差観スケールの「1. そう思わない」「2. どちらかというとそう思わない」「3. どちらかというとそう思う」「4. そう思う」の全30項目の単純加算を行い、性役割得点とした。得点が高いほど、性役割観が強い。そして、その得点と性意識に関する質問各々について関連をみた。また、性差観スケールの全30問各々と性意識に関する質問各々についても関連をみた。差の検定にはt検定を用い、有意水準は5%とした。

3. 結果と考察

(表1) 性役割観と性意識との関係

	はい 人数(%)	平均得点及び標準偏差	いいえ 人数(%)		平均得点及び標準偏差
			女性	男性	
問2-1 どちらかといえば、女性のほうから避妊を提案するの は気が引けることだと思いますか	21(15.7)	70.9±12.2	113(84.3)	64.5±13.2	
問2-2 どちらかといえば、コンドームは男性が買う方がいい と思いますか	118(88.1)	66.3±12.9	16(11.9)	59.2±13.8	
問2-3 どちらかといえば、キスやセックスなど性的な行為は 男性がリードした方がいいと思いますか	91(67.9)	69.4±11.8	43(32.1)	57.1±12.2	
男性					
問2-4 どちらかといえば、自分から避妊を提案するような女 性はあまり好ましくないと思いますか	0(0)	—	32(100)	64.5±11.7	
問2-5 どちらかといえば、自らコンドームを買うような女性は 好ましくないと思いますか	3(9.4)	75.7±6.8	29(90.6)	63.3±11.6	
問2-6 どちらかといえば、自らキスやセックスなど性的な行為 をリードするような女性は好ましくないと思いますか	3(9.4)	77.3±4.0	29(90.6)	63.1±11.5	

(表2) 性役割得点と性意識とのt検定

	性役割得点	
	T	P
問2-1 どちらかといえば、女性のほうから避妊を提案するのは気が引けることだと思いますか	2.069	*
問2-2 どちらかといえば、コンドームは男性が買う方がいいと思いますか	2.050	*
問2-3 どちらかといえば、キスやセックスなど性的な行為は男性がリードした方がいいと思いますか	5.591	***
問2-4 どちらかといえば、自分から避妊を提案するような女性はあまり好ましくないと思いますか	—	—
問2-5 どちらかといえば、自らコンドームを買うような女性は好ましくないと思いますか	1.801	N.S.
問2-6 どちらかといえば、自らキスやセックスなど性的な行為をリードするような女性は好ましくないと思いますか	2.106	*

* P<0.05 * * P<0.01 * * * P<0.001

(1) 性役割得点 (表1)

性役割得点の平均合計得点±標準偏差は、女性 65.5±13.2 点、男性 64.5±11.7 点であった。

(2) 性役割得点と性意識 (表2)

①性役割観と「避妊の提案」の関連について (問2-1 : 女性対象)

性役割観が強い者の方が、女性から避妊の提案をすることは気が引けることだと考えていることが示唆された。しかし、避妊も含め実際の性交場面でとる自分の行動と意識の差も指摘されており³⁾、自分の考えていたとおりに女性が行動することの難しさを述べている。要因の一つとして、性役割（ジェンダー）に関する要因があると思われる。

②性役割観と「コンドームの購入」の関連について (問2-2 : 女性対象)

性役割観が強い者の方が、コンドームは男性が購入する方がいいと考えていることが示唆された。コンドームは最もよく用いられている避妊法である³⁾。従来の性役割のイメージでは、女性にとって「コンドームを購入する」という行為は役割にそわないものであると思われる。

③性役割観と「性的な行為のイニシアティブ」の関連について (問2-3 : 女性対象)

性役割観が強い者の方が「男性のリード」を肯定する様子が示唆された。前述の「コンドームの購入」と比べると、「はい」と答えた者の割合は減少した。男性による「コンドームの購入」という行為は、「男性のイニシアティブ」の一つとも考えられるが、女性自身の体を守る上でも重要なコンドームを購入することにおいて、より「男性リード」の様子が伺えるのは、危惧するところである。

④性役割観と「避妊の提案」の関連について (問2-4 : 男性対象)

対象となった男性全員が「いいえ」と答えたため、「避妊の提案」と性役割観との間に有意な関連はみられなかった。性交渉における男性リード、男性優位の姿勢³⁾が報告される中、この結果は、今後さらに女性が避妊の提案をしやすい環境になることに対して、少々の期待がもてると思われる。

⑤性役割観と「コンドームの購入」の関連について（問2－5：男性対象）

「コンドームの購入」と性役割観との間に有意な関連はみられなかった。しかし、有意でなかつたが、その値が0.082となっており、今後調査対象者の人数を増やしての検討も必要であると思われる。前述の女性を対象にした設問（問2－2）と比較すると、本研究では男性の方が女性よりも、女性がコンドームを購入することを否定的には捉えていない様子が伺える。

⑥性役割観と「性的な行為のイニシアティブ」の関連について（問2－6：男性対象）

調査対象者数は少ないながらも、性役割観が強い者の方が「女性が性的な行為をリードすること」に否定的な様子が示唆された。女性は自己決定をしたいという意志は持っているにもかかわらず、意志と行動にギャップがある³⁾。これは女性自身の課題でもあるが、同時に男性側も「リード」が「強要」にならないようにすることが重要であると思われる。

⑦性役割観の各項目と性意識

女性対象の質問では、問2－1で5項目、問2－2で8項目、問2－3で20項目、それぞれに有意な差がみられたものの、女性の性意識の全ての質問項目に関連があったものはなかった。

男性対象の質問では、問2－4で2項目、問2－5で1項目、それぞれに有意な差がみられた。両項目に共通するのは「体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない」であった。男性において関連があった項目が少ないとふまえると、この結果は体力の優劣が社会的不平等に直結する極めて根深い問題だと思われる。

4. 結論

本研究で対象とした大学生では、異性交際場面における性意識のうち、女性は「避妊の提案」「コンドームの購入」「性的な行為のイニシアティブ」、男性は「性的な行為のイニシアティブ」において、性役割観との関係が認められた。

性役割行動を見直すことで、男女の関係がより円滑で平等なものとなると同時に、妊娠や人工妊娠中絶と切り離せない問題である避妊に対して、女性がより主体的に関われるようになるはずである。今後、性役割の視点をふまえた性に対する教育と社会的レベルにおける性役割の見直しが必要であると思われる。

5. 本研究の問題点と今後の課題

本研究の問題点として、男性の人数が女性の人数の4分の1強という偏りがあったことがあげられる。今後人数を増やしての調査の必要があると思われる。また、本調査対象者はI大学教育学部に在籍し、しかも「子どもの虐待」に少なからず関心のある者たちであり、性役割観もやや低めであった²⁾。今後、一般の学生を代表し得るような、調査対象者での調査も必要であると思われる。

6. 参考文献

- 1) 渡邊恵子：青年期後期における性役割－大学生の対人場面における性役割行動・性役割観・性役割受容の性差－，日本女子大学紀要 人間社会学部，7，89－100，1996
- 2) 堀洋道監修/山本真理子編：心理測定尺度集I－人間の内面を探る＜自己・個人内過程＞－，サイエンス社，2001
- 3) 劍陽子：北九州市近郊における大学生の性行動と性に関するジェンダー意識調査，思春期学21(1)，95－104，2003